

貯 法：室温保存

有効期間：3年

活性型ビタミンB₆製剤処方箋医薬品^{注)}

ピリドキサルリン酸エステル水和物注射液

ピリドキサル注30_{mg}「杏林」

PYRIDOXAL Injection

承認番号	23000AMX00173000
販売開始	1978年4月

注) 注意—医師等の処方箋により使用すること

3. 組成・性状

3.1 組成

有効成分 (1管1mL中)	日局ピリドキサルリン酸エステル水和物 30mg
添加剤	亜硫酸水素ナトリウム・・・18mg pH調節剤

3.2 製剤の性状

剤形	水性注射剤
外形	淡黄色澄明
pH	5.5～7.5
浸透圧比	約2（生理食塩液に対する比）

4. 効能又は効果

- ビタミンB₆欠乏症の予防及び治療（薬物投与によるものを含む。例えばイソニアジド）
 - ビタミンB₆の需要が増大し、食事からの摂取が不十分な際の補給（消耗性疾患、妊産婦、授乳婦等）
 - ビタミンB₆依存症（ビタミンB₆反応性貧血等）
 - 下記疾患のうち、ビタミンB₆の欠乏又は代謝障害が関与すると推定される場合
 - 口角炎、口唇炎、舌炎、口内炎
 - 急・慢性湿疹、脂漏性湿疹、接触皮膚炎、アトピー皮膚炎、尋常性瘡瘡
 - 末梢神経炎
 - 放射線障害（宿酔）
- (4)の効能又は効果に対して、効果が無いのに月余にわたって漫然と使用すべきでない。

6. 用法及び用量

ピリドキサルリン酸エステル水和物として、通常成人1日5～60mgを、1～2回に分けて、皮下、筋肉内または静脈内注射する。

なお、年齢、症状により適宜増減する。きわめてまれであるが、依存症の場合には、より大量を用いる必要がある場合もある。

7. 用法及び用量に関連する注意

依存症に大量を用いる必要がある場合は観察を十分に行いながら投与すること。特に新生児、乳幼児への投与は少量から徐々に増量し、症状に適合した投与量に到達させること。[9.7.1、11.1.1参照]

9. 特定の背景を有する患者に関する注意

9.7 小児等

- 9.7.1 新生児、乳幼児に大量に用いた場合、横紋筋融解症、下痢、嘔吐、肝機能異常等の副作用があらわれることがある。[7.、11.1.1参照]
- 9.7.2 小児等を対象とした臨床試験は実施していない。

10. 相互作用

10.2 併用注意（併用に注意すること）

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
レボドパ	レボドパの作用を減弱することがある。	ピリドキシンがレボドパの末梢での脱炭酸化を促進し、脳内作用部位への到達量を減少させるためと考えられている。

11. 副作用

次の副作用があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

11.1 重大な副作用

11.1.1 横紋筋融解症（頻度不明）

新生児、乳幼児に大量に用いた場合、CK上昇、血中及び尿中ミオグロビン上昇を特徴とする横紋筋融解症があらわれ、急性腎障害等の重篤な腎障害に至ることがある。[7.、9.7.1参照]

11.2 その他の副作用

	頻度不明
過敏症	発疹等の過敏症状
消化器 ^{注)}	下痢、嘔吐
肝臓 ^{注)}	肝機能異常
その他	注射部位の発赤、疼痛、皮下硬結

注) 新生児、乳幼児に大量に用いた場合、認められたとの報告がある。

14. 適用上の注意

14.1 薬剤投与時の注意

筋肉内注射にあたっては、組織・神経等への影響を避けるため下記の点に注意すること。

- ・筋肉内投与はやむを得ない場合のみ必要最小限度に行うこと。なお、特に同一部位への反復注射は行わないこと。また、乳幼小児に連用することはこのましくない。
- ・神経走行部位を避けるよう注意すること。
- ・注射針を刺入したとき、激痛を訴えたり、血液の逆流をみた場合は、直ちに針を抜き、部位を変えて注射すること。

18. 薬効薬理

18.1 作用機序

ピリドキサルリン酸エステルは、補酵素として数多くの酵素に関与しているが、代表的なものとして、アミノ基転移酵素（Transaminase）、キヌレンニン分解酵素（Kynureninase）、アミノ酸脱炭酸酵素（Aminoacid decarboxylase）、脱水素酵素（Dehydrase）、モノアミン酸化酵素（Monoamine oxidase）、ヒスタミン分解酵素（Histaminase）等があげられている。

19. 有効成分に関する理化学的知見

一般名：ピリドキサルリン酸エステル水和物
(Pyridoxal Phosphate Hydrate)

化学名：(4-Formyl-5-hydroxy-6-methylpyridin-3-yl)methyl dihydrogenphosphate monohydrate

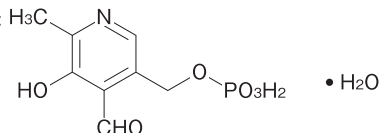
分子式：C₈H₁₀N₀O₆P・H₂O

分子量：265.16

性状：微黄白色～淡黄色の結晶性の粉末である。水に溶けにくく、エタノール（99.5）にほとんど溶けない。

希塩酸又は水酸化ナトリウム試液に溶ける。0.1gを水200mLに溶かした液のpHは3.0～3.5である。光によって淡紅色となる。

化学構造式：H₃C



22. 包装

1mL×50管（茶色ガラスアンプル）

23. 主要文献

1) Holtz, P. et al. : Pharm. Rev., 1964 ; 16 (2) : 113-178

24. 文献請求先及び問い合わせ先

キョーリンリメディオ株式会社 学術部
〒920-0017 金沢市諸江町下丁287番地1
TEL 0120-960189
FAX 0120-189099

26. 製造販売業者等

26.1 製造販売元

キョーリンリメディオ株式会社
富山県南砺市井波885番地

26.2 販売元

杏林製薬株式会社
東京都千代田区神田駿河台四丁目6番地

製造販売元
キョーリンリメディオ株式会社
富山県南砺市井波885番地
販売元
杏林製薬株式会社
東京都千代田区神田駿河台四丁目6番地